



2020年7月

発行 理事会

生活クラブ生活協同組合

〒524-0044

滋賀県守山市古高町110番地8

TEL 077-514-2028

組合員数...2,748名



第11回 通常総代会 報告号

2020年6月15日(月)第11回通常総代会が終了しました。コロナウィルス感染症の影響で、会場に集まることが難しい時期でした。予定していた守山市立図書館活動室の定員(100名)が3分の1になり、急遽、会場の変更を行いました。ライズヴィル都賀山にて、同室内に役員の子どものスペースも作り、開催しました。昨年まで依頼していたシルバー人材センターへ託児の依頼ができず、総代の子どもの託児が出来ませんでした。そのため、出席が減ったことは残念に思います。第1号議案から第5号議案まで賛成多数で可決されました。任期満了に伴う改選で新しい役員も決まりました。総代総数105名、出席(書面議決含む)97名でした。



日常に新型コロナウイルスが入り込んでから数ヶ月、日々もたらされる情報をどう受け止めたら良いのか、日増しに制限のかかる日常。先が見えないということが、不安をより一層膨らませてしまいます。人と会うこと、出歩くことに注意を払わなければならない状況は、私たちの活動にとっては大きな痛手に感じられます。しかし、ここで立ち止まってはいただけませんので、この状況下、私たちには何ができるのか、よく考えて進んでいきたいと思えます。

2019年は設立から10年を迎え、組合員が出会える場所、消費材を知る機会を多くつくろうと活動に取り組み、中期計画策定委員会では、5年10年先の姿を最大限イメージを膨らませて議論をすすめています。

2020シャボン玉フォーラム全国集会を滋賀で開催することになり私たちがすすめる運動の

ひとつ、せっけん運動も一年をかけて取り組めたことは大きな原動力になりました。

新しい仲間づくりには、度重なる消費材事故や消費税増税の影響もあり苦戦しましたが、長浜コースが新たにでき、冬のキャンペーンでも生活クラブの良さを丁寧につたえ、2,570名の仲間になりました。しかし一人当たりの供給高は下がり続けています。

世界規模での気候変動が、毎年のように私たちの暮らしに直接被害をもたらす状況になってきました。「びわ湖の深呼吸」と呼ばれる酸素の大循環は昨年続き、今年も起きなかったそうです。ですが、昨年秋、台風が通過した際、湖面が強風によりかき回され、酸素が湖底近くまで行き渡ったというニュースもありました。

長年の提携産地である長野県八ヶ岳会の収穫直前のりんご畑を台風19号が襲い、甚大な被害をもたらしました。

今尚被害を受けた生産者や町は復興の道半ばです。

秋にいくつもの台風が日本列島を縦断していき、全国の提携生産者や生活クラブ事業所まで大きな被害をうけました。災害支援カンパの取り組みでは、たすけあいの力が全国から寄せられ協同の力の素晴らしさを実感しました。

「パリ協定」や「SDGs」をふまえ、2030年のCO2排出量を2013年度と比較して40%削減することを目標と定め、さらなる温室効果ガスの削減をめざします。

2019年の連合総会では、「ゲノム編集食品を受け入れない」特別決議を採択しました。

私たちは、「生活クラブの消費材10原則」組合員と生産者が共に検討を重ね「共に対等な立場で消費材を開発し、その共同購入を通じて“健康で安心して暮らせる社会”の実現」を掲げ、第2原則では「遺伝子操作された原材料は受け入れません」として「生命の倫理に反し、企業による支配を招く“食べ物の遺伝子操作”に反対します」と決めました。

福井県原発はただ再稼働しているのではなく、大きな闇の中で私たちの電気代として支払った巨額のお金が顔のわからない人たちにいいように扱われていた実態が明らかになりました。

原発のない社会を子どもたちに手渡しましょう。

2月末、新型コロナウイルス感染拡大防止の動きを取らざるを得ない状況になりました。

3月に企画していた、生産者交流会、LP講座、脱プラ学習会、リフレッシュツアーは開催を断念し、5月のシャボン玉フォーラムは1年延期になりました。

この経験したことのない事態をどうとらえ、降りかかってくる不安をかわしながら、私たちの暮らしをどう維持していくのか。人は会うことで、話をしたり、一緒に考えたり、情報交換したり、心が落ち着いたり。今、その日常のあたりまえが、コロナを盾に奪われています。(予防対策は必須)

細心の注意を払いながら、私たちにできることを考えてみませんか？

ウイルスに負けない身体をつくるには？

CO2排出を減らす暮らしをするには？

水環境をこれ以上汚さないためには？

国内自給率をあげるためには？

デマに流されないためには？

孤立しないためには？

私たちの毎日の消費行動で社会は動いています。立ち止まった今だから、考えるチャンスにしましょう。今だから、見えてくるものがあります。

だから生活クラブなんだ！！

第 1 号議案 2019 年度活動報告承認の件

組合員数 2,570 名。毎年の春秋の仲間づくりキャンペーンの加え、冬にもキャンペーンを行いました。目標の 2,700 名は達成できませんでした。

10 周年企画として、生産者交流会とライフプラン講座を毎月開催しました。

ひとり当たりの利用については、2018 年度を下回り、まだまだ消費材の良さを伝えきれていないことが課題です。

地域での集まりの学区会、信楽プロジェクト、中期計画策定委員会、2020 シャボン玉フォーラム in しが実行委員会（コロナウィルス感染拡大の影響で 2021 年へ延期）、長浜プロジェクト（班配送のみ、事業採算の合うコース作り目指し 3 月スタート）での取り組みを報告しました。

NON-GM 委員会（ゲノム編集食品の規制と表示を求める請願活動の署名目標を上回る）、NO-NUKES 委員会（生活クラブでんきの加入目標を上回る）、リフレッシュツアー委員会（ツアーの 1 年延期）、びわ湖環境委員会（ヒンメリキットを考案作成）、消費委員会（テーマごとのおすすめ消費材紹介と委員会のいったん休止）、広報委員会（機関紙さざなみの毎月発行）、西の湖よし灯り展出品実行委員会（初出品の取り組み）を報告しました。

第 2 号議案 2019 年度事業報告・決算報告および欠損金処分案承認の件

組合員数・供給剰余が予算に届かず、1,936,252 円を欠損金として次期会計年度に繰り越します。長野県の堤防決壊によりふじりんごの供給がストップしたため供給高が下がり、ひとり当たりの利用が伸びなかったことで剰余を残すことができませんでした。

第 3 号議案 2020 年度 活動方針（案）承認の件

学区会や各委員会のイベントの場所などを活用して、地道に声かけします。地域の組合員がつながることで、地域や学校など自分たちの生活に直結する課題を見つけ取り組むことで、ひとりひとりの生活が豊かになり、地域も豊かになっていくと考えます。また、活動を続けるには事業が成り立ってこそ。食べたい、使いたいと作り出した消費材を、子どもたちの世代やその先の世代も食べ続けられるよう、共同購入を計画的に利用し、ひとり当たりの利用を 2019 年度よりも月 500 円増やしていきます。また、組合員活動拠点づくりを行います。

学区会、信楽プロジェクト、長浜プロジェクト、中期計画策定委員会（12 月に臨時総代会開催）、2020 シャボン玉フォーラム in しが実行委員会（2020.2021 シャボン玉フォーラム in しがと名称変更）、託児活動（組合員での助け合いの仕組みを視野に活動開始）、NON-GM 委員会、NO-NUKES 委員会、リフレッシュツアー委員会（2 年分の規模でリフレッシュツアーを開催）、びわ湖環境委員会、消費委員会（体制が整い次第再開）、広報委員会の活動について提案しました。

第 4 号議案 2020 年度事業方針・予算（案）承認及び役員報酬限度額承認の件

事業剰余を 4,149,000 円、組合員数 2,875 名、共済の加入推進、生活クラブでんきの加入者 31 名、利用結集に取り組みひとり当たり 500 円アップを目標とします。役員は理事 8 名、監事 3 名。役員報酬限度額は、9,420,000 円とします。

第 5 号議案 定款変更の件

日本コープ共済生活協同組合連合会の受託共済事業に学生総合共済を加えるため、新たに全国大学生協共済協同組合連合会が行う共済事業を受託するための変更をします。

第6号議案 任期満了に伴う役員選挙

役員選挙管理委員会・役員選考委員会から役員候補者全員を当選人と宣言しました。

理事								監事		
全体区	大津	湖南			湖東			茂山	野瀬	山本
山下 崇輝	山本 綾子	秋久保 由紀	上田 佐和	酒井 愛子	中西 浩子	丸柱 真優佳	中井 貴仁	奈緒子	美奈子	和美



提案後の質問・意見の時間には、脱退の傾向や対処方法、臨時総代会の開催告知、役員退職給付金の積立、組合員活動費の減少、役員報酬の増額、留守置き組合員へのアプローチの仕方、定款変更の理由、採決の在り方など、多岐にわたる質問・意見が出され、活発な議論となりました。

総代会終了後、第1回理事会が開催され、理事長に秋久保 由紀が選任されました。理事長挨拶と退任役員の紹介があり、大きな拍手のなか、閉会となりました。

